

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレーンズ		
事業所名	なじみ山根(グループホーム)		
所在地	福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が日々安全で安心して過ごされ、ご本人の意思、主体性を尊重し、お一人おひとりがその人らしい生活ができるように支援をしています。
 チームケアを重んじ、職員一人ひとりが向上心、やりがいを持って働けるよう、担当制の実施、研修へ参加する機会を設け、人材育成に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者を尊重し、利用者本位の支援を行っている。また、日頃から家族とコミュニケーションが良くとられており、家族の面会等もあり利用者の安心につながっている。そのため、利用者はゆったりと落ち着いて生活している。
 2. 年間研修計画により研修会が行われており、職員の資質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、職員全員が目につく場所に掲示。会議等で繰り返し内容を確認することで共有を図り、利用者が自分らしい生活ができるように支援している。	前年度の外部評価で「次のステップに向けて期待したい内容」が記載されたことから、今年、職員間で理念の見直しを行い、作り直した。新しい理念をフロアに掲示し全職員で共有しながら利用者本位のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会、敬老会、清掃活動に参加することで地域との交流を積極的に図っている。又、散歩の際は挨拶を交わしたり、地域の方々に施設の行事、催し等の参加の呼びかけをし、交流を図っている。	町内会に加入し、利用者と回覧板を回しに行ったり、清掃活動や文化祭へ参加・出品したり、地域のお祭りでは子供神輿が事業所の駐車場まで回って来てくれる等、地域交流が行われている。また、毎月、ふれあいデイを開催し、地域の人達の交流の場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して家族の集いを開催し、認知症の理解を深めている。又、事業所交流スペースを地域の方々に開放し、事業所内の様子を見ていただくことで理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二カ月に一回定期的に運営推進会議を開催し事業所の状況等を説明し意見を頂戴している。頂いた意見やアドバイスは、その後社内ミーティングで議論し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、事業所の活動内容を報告すると共に、課題などについて委員から助言を頂きながら、サービス向上に活かしている。委員の意見を受け、地域の体操教室を事業所の交流スペースで開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村へは主として管理者が密に連絡、状況を報告し協力関係を築いている。地域包支援センターに於いても日頃から連絡を取り、良い関係を構築している。	行政が主催する「サービス運営に関わる三者(行政担当者・介護サービス相談員・グループホームの管理者)面談」に参加し、事業所の現状を報告し、情報交換を行う中で市の担当者と連携を図り、関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所方針に基づき、社内研修で身体拘束の理解を深め、職員一人ひとりに意識付けをいている。	法人の経営理念・方針に掲げている「身体拘束のないケアをめざして」内部研修を行っている。「言葉による拘束」も職員間で注意しあい、日々の支援で拘束のないケア実践している。日中玄関の施錠はなく、職員が利用者の外出や行動を見守り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やミーティングでの話し合い等で虐待に関する知識を高め、見過ごされることのないよう常日頃から注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や講習会を開催し学ぶ機会を設けている。必要に応じて関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立ち、不安や疑問を尋ね、理解・納得していただいたか確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常会話やご家族来訪時、職員から積極的に声を掛け、意見や要望を述べやすい環境に努め、職員全員が共有し運営に反映させている。又、家族の集いを設立し定期的に開催。ご家族の悩み、相談事等を自由に話せる場を設けている。	日常生活の中で利用者の意見や希望を聞きサービスに活かしている。また、家族等には面会時に意見、要望を聞き、それらを共有しながら運営に反映している。今年の4月から小規模と合同で家族の集いを毎月開催しているが、出席者のほとんどが小規模のご家族であることからグループホームの家族等の参加を呼びかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が常に現場に関わり、職員に日々声掛けをし意見や要望を聞き運営に反映させている。又、年に二度個別面談を行い、意見等を聞いている。	管理者は、年2回の個別面談・職員会議・ミーティング及び日頃の関わりの中で、職員の意見や要望・悩み等を聞き、運営に反映させている。部屋のレイアウトや介護記録をする時間を決める等、職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた勤務条件を整備し、勤務状況、実績、自己評価も含め給与を検討している。又、面談を通して職員個々の目標を確認し、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で勉強する機会を設けている。社外研修にも積極的に参加させ、学んできたことをミーティングで発表してもらい、職員個々のスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県連絡協議会に加盟。総会などに積極的に参加し他社との交流を深めている。又、事業所間で常に情報交換をしており、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用していただく前に必ずご本人と面会し、要望や思いに耳を傾け、少しでも不安の解消ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用していただく前にご本人の状態と一緒に確認しながら、ご家族様の要望や思いにも耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず状況・状態を把握し、今一番必要としている支援・サービスを見極め、ご本人の思いを尊重した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な生活及び自立支援を念頭に置き、自立されている部分はご本人にさせていただき、できないことを手助けし、お一人おひとり役割を持ちお互いに協力し合い、家族的な生活が営めるような関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人を中心に考え、ご家族と情報を共有し合いながら、共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・知人・友人等がいつでも気軽に足を運んでいただける環境作りに努め、体調を考えながら馴染みの場所やご家族やご友人と気軽に外出できるよう支援している。	知人・友人・家族の来所時には、お茶を出し、居室でゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。また、利用者は友人と喫茶店でお茶を飲んだり、家族と床屋・外食・墓参りに出かけたり、自宅へ外泊する等、馴染みの人や場所との関係が継続されるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や状況を把握し、職員が介入しながら利用者同士が支え合っているような環境作り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を保ち、必要に応じ相談を承り、相談や支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や日常会話の中からニーズを引き出し、本人の思い、意向に沿った本人本位の暮らし方ができるよう会議で検討している。	利用者に対して担当制度を導入しており、日常のケアの中での些細な会話や仕草からも利用者の意向把握に努めており、家族からの情報も得て、利用者本位の支援が出来るよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活習慣や暮らし方をご本人やご家族からお聞きし、できるだけ馴染みの暮らし方が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族から入所以前の生活・心身の情報をお聞きし、以前と変わることなく生活していただけるよう常に現状を把握し、職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を通しご本人、ご家族のニーズをお聞きし、アセスメントした結果を基に会議で話し合わせ、現状に合わせた支援方法を介護計画を作成している。又、身体状態の変化に合わせ、モニタリングした結果を基に介護計画の見直しも行っている。	アセスメントをし、利用者の現状把握を十分に行い、利用者・家族の意見を踏まえて利用者本位の介護計画を作成している。また、日々の個別記録をもとにカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・結果は毎日個別記録に記入し職員間で情報を共有している。又、ミーティングで工夫等が職員間で話し合わせ実践や介護計画の見直しに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせ、ご本人、ご家族と話し合い、臨機応変で柔軟な支援、サービスに取り組むよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、一人ひとりが地域との繋がりを育てよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し合い、心身の状態に合わせたかかりつけ医を選定し、適切な医療が受けられるよう支援している。又、医師と連絡を密に取り、情報を共有することで医療との関係を構築している。	利用者・家族の希望に沿ったかかりつけ医へ通院しており、状態変化に応じて、往診等も可能である。通院は、家族同行を基本とし、困難な場合は事業所に対応している。受診時は健康状況を記録で家族へ渡し、受診結果等の報告を受け、家族と職員が情報を共有し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化は記録に残し、随時看護師に報告している。訪問看護師が週に一度来訪する為、その際には状況の報告と相談をし、適切な対応と指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には訪問し、病院関係者との情報交換を行ない、適切で安心した治療が受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の支援についての説明をし同意を得ている。状態・状況の変化に沿ってご家族、医療、専門職と話し合い、協力しながらチーム支援に取り組んでいる。	利用開始時、事業所の「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者・家族に説明し、同意書を得ている。看取りの対応時は、家族と医療機関・訪問看護師等と話し合い、方針を共有しながら、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変、事故発生時を想定した訓練を行っている。又、マニュアルを作成し、円滑に対処できるよう周知させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となって、毎月一度様々な状況を想定した避難訓練を実施している。又、地域や運営推進委員の方々にも見学していただき、協力体制の構築を図っている。	年2回の消防署立合いの総合訓練と月一度の防災訓練を実施している。夜間想定訓練を含む火災訓練や地震の訓練が行われており、地域の協力体制は運営推進委員に協力を得ている。非常用食料等も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念を念頭に置き、一人ひとりの人格を尊重した接し方に配慮している。	利用者一人ひとりの人格の尊重を基本に支援しており、プライバシーを損ねないよう職員間でも声を掛け合い、言葉かけには十分に注意している。接遇や個人情報について、毎月の全体ミーティングで内部研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出できるよう常にお伺いを立て、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先にならぬよう心掛け、一人ひとりの意向を尊重した個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気持ちの良い気分で一日を過ごしていただけるよう、身だしなみには気を配っている。又、地域の理髪店に協力をお願いし、事業所で定期的に散髪していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と共に昼食の下ごしらえ、米とぎなどを行ない、利用者と職員が同じテーブルで和やかに食事を楽しめるよう支援している。	下ごしらえなどを利用者にも手伝ってもらい、食事は職員も一緒にテーブルを囲み和やかに過ごしている。食の進まない利用者にはさりげなく声かけをして支援している。利用者の希望を聞きながら外食はファミリーレストラン等に2ヶ月1度出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら、お一人おひとりの状態に合わせた量、形状で提供している。又、十分な水分量を確保していただけるよう、積極的に声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、誘導しお一人おひとりに合わせた対応、支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の訴えがある方はその都度トイレに誘導し、尿意、便意の無い方は定時誘導を設定し誘導している。一人ひとりの排泄パターンに合わせ自立に向けた個別支援を行っている。	利用者個別の排泄パターンを把握して、誘導時の声掛けに配慮しながら個別支援を行っている。職員は利用者一人ひとりの排泄サインを見ながら対応しており、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、訪問看護師に相談し、指導していただいている。便秘が及ぼす心身への影響を職員に伝え、適度な運動とこまめな水分摂取の促しを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、週3回の入浴を実施している。入浴の際にはバイタル、ご本人の意志、体調を確認し安心して入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	週3回の入浴が基本となっているが、本人の希望で回数を増やすこともある。またバイタルで体調を確認している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯、温泉入浴剤なども利用して、入浴を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は各自室にて昼寝をしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の最新の処方箋をファイリングし、職員全員が薬に対しての理解が出来るよう努めている。誤薬防止の為、ご本人の目の前で名前や日付を確認したから服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせた家事仕事をお手伝いしていただいたり、ご本人の楽しめるもを用意し気分転換ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は施設周辺を散歩したり、市内をドライブしたりしている。又、ご家族にお願いして外出していただいたりと、できる限り希望に添えるよう支援している。	天気のよい日は近隣を散歩したり、事業所前の高等学校の校庭での活動を見学に行ったり、買い物等に出かけている。季節ごとにはドライブで花見や紅葉狩り、足湯等にも出かけている。家族と外出を楽しんでいる人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は興味を示される方がおられない為、買い物などを希望された時は同行した職員が管理し、一緒に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用、手紙のやり取りは、ご本人の希望があれば、自由に使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、壁面に年中行事に沿った飾り物をして季節感を楽しませている。テーブル、ソファ以外にも、畳みスペースに炬燵を置いて、ゆったりくつろいでいただけるように工夫している。	共用空間は広く中庭が見えるため、開放感がある。食堂のテーブル・椅子、居間のソファ、畳敷きの部分には炬燵があり、利用者が思い思いの場所で寛げるよう配慮されている。周りの壁面には写真や作品などを飾り、また毎月季節ごとの飾りつけをし、季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルで楽しく過ごせるようにしている。お一人になりたい時は、自室で過ごしたり、その都度様子を見ながら工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人の慣れ親しんだ物をご家族にもってきていただいたり、ご本人の希望で飾って欲しい物などを壁に飾ったり、ご本人らしく過ごせるような配慮をしている。	居室には、ベットとクローゼットが設置されている。利用者の馴染みのもの(筆筒・炬燵・テレビ・雑誌・ぬいぐるみ・家族との写真等)を持参してもらい、利用者と家族の希望に合わせて部屋づくりをし、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレに表示を設置し、分かり易く工夫したり、歩行経路には物を置かない配慮をしている。		